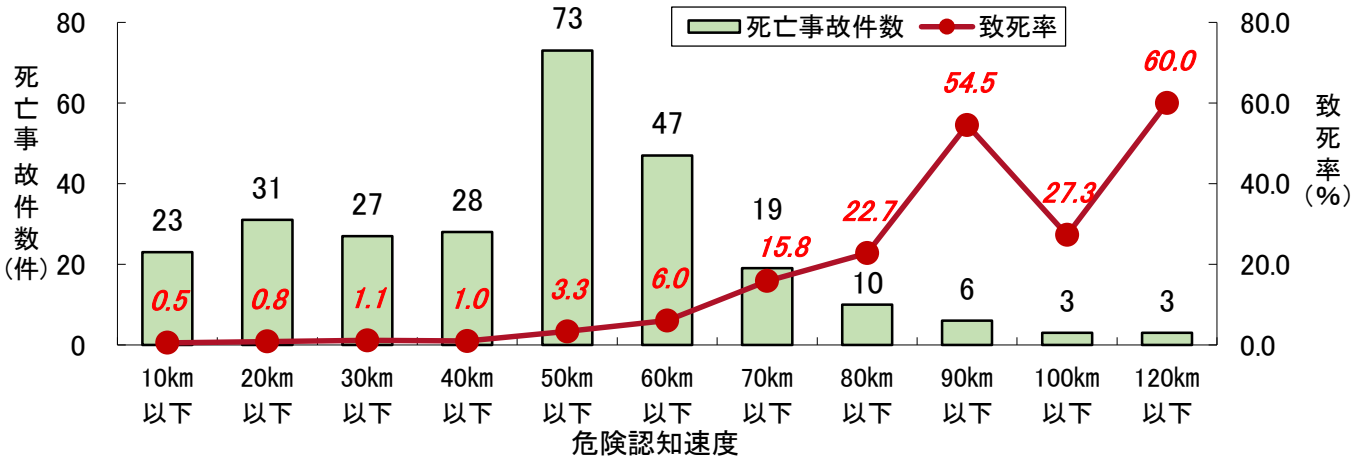
危険認知速度分析 ～ スピードの出し過ぎは重大事故に！ ～

５年間（平成30年～令和４年）

【 危険認知速度別死亡事故件数・致死率 】

※ 高速道路等を除く事故

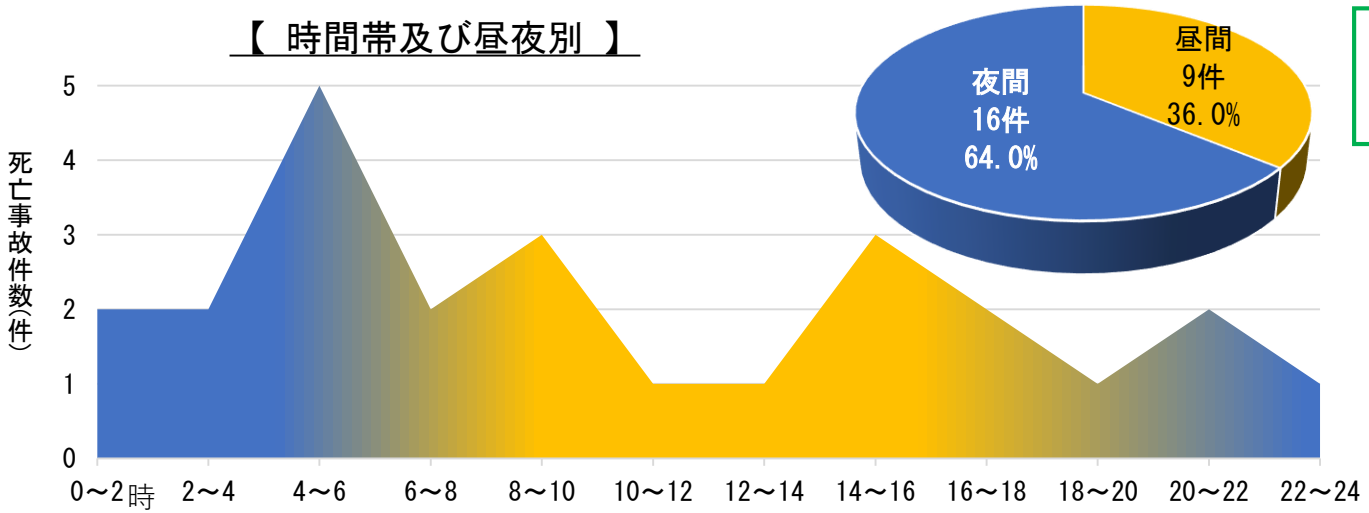


スピードを出すとどのくらい危険で死亡事故につながるのか、過去５年間の死亡事故（高速道路等での事故を除く）で「危険認知速度」から、速度別の致死率をみると、40km/h以下までは致死率は１.０%以下であるが、50km/hを超過したところから上昇が目立ち、速度が上がるにつれて致死率が高くなり、70km/hを超えると15%以上の致死率となる。当然ながら速度が出るほど事故時のダメージは大きく、死亡事故発生の大きな要因といえる。

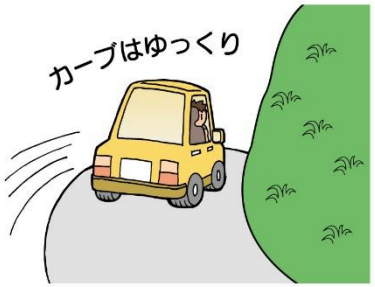
注１：「危険認知速度」とは、事故当事者が相手方車両・人等を認め、危険を認知した時点の速度、例えるとブレーキ・ハンドル操作等の事故回避行動をとる直前の速度をいう。
２：「致死率」とは、人身交通事故１００件当たり、どの位の割合で死亡事故になるのかを示したものをいう。

≪最高速度違反による死亡事故発生状況≫

【 時間帯及び昼夜別 】

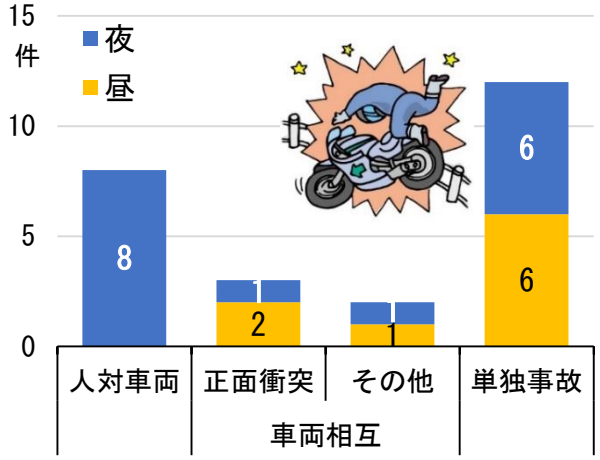


速度違反による死亡事故の発生時間帯をみると、夜間の発生が昼間より多く、特に深夜から未明の事故が多い。

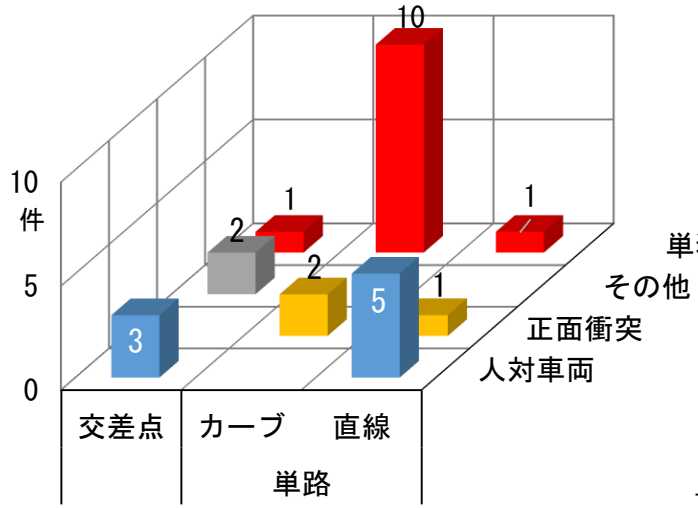


≪最高速度違反による死亡事故発生状況≫

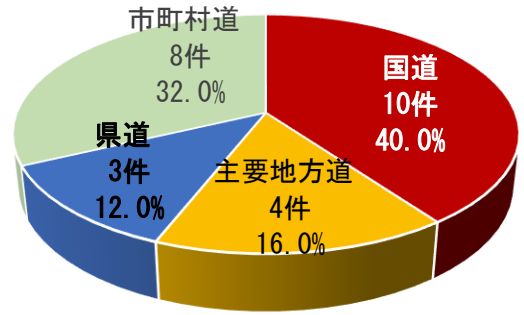
【 事故類型と昼夜別 】



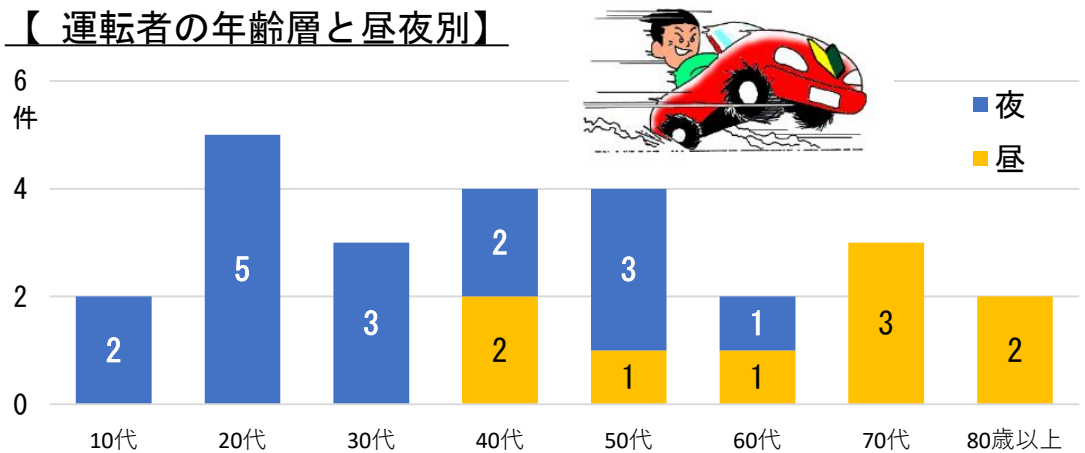
【 道路線形と事故類型別】



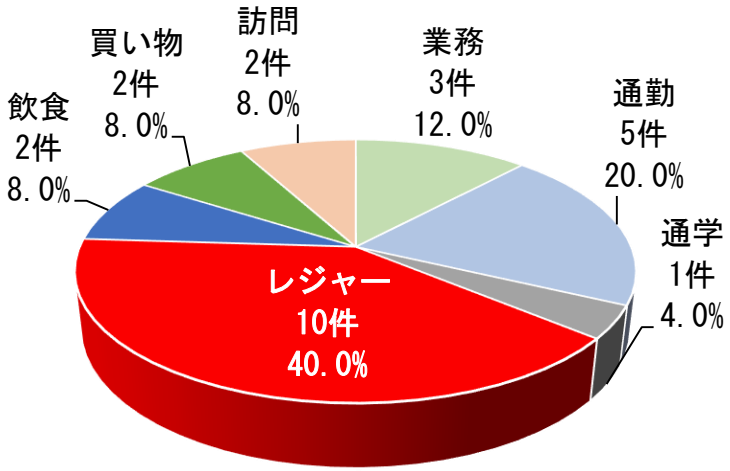
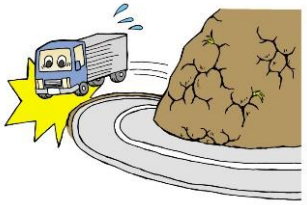
【 道路種別】



【 運転者の年齢層と昼夜別】



【 運転者の通行目的】



・単独事故が約半数を占め、カーブでの事故が目立つ。また、対歩行者事故はいずれも夜間の事故となっている。
・レジャーでの事故が４割を占めるほか、通勤中の事故も目立つ。
・運転者の年齢層が若いほど夜間の事故が多く、高齢者は昼間の事故が目立つ。
・路線別に見ると、国道や主要地方道といった幹線道路が半数以上を占め目立つ。